

タイ国見たまま

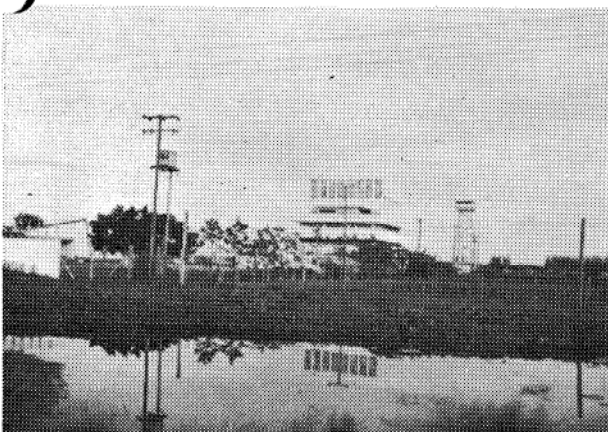
川崎 近太郎

昨年12月にタイ国へ出張する機会を得て、タイ国医学会に出席するとともに、バンコックやチェンマイを見物することもできた。バンコックは東西アジアの交通の要所で、バンコックやその近郊の観光には多くの日本人団体を集めているので、筆者が紹介するまでもないだろう。時間の余裕のない筆者にはタイ国往復12日の旅行ではタイ国の表面だけをのぞいてきたに過ぎない。医学会での講演を済ませてしまえば責任解除されたので、のんびりとタイ風物を楽んでの感想で、的外れの点もあろうが、直感が当たるかそれとも無責任な放言になるか、気附いた

1. 戦勝記念碑

空路バンコックまで大阪からの直行便にのると、約9時間で着くが空港からバンコック市内に入ると、Victory Monument があり、通天閣に比較できるほどの鉄塔である。戦勝というのはいつの戦争かと思うと、筆者の聞いたところでは第二次世界大戦であるということであった。第二次大戦ではタイは日本の同盟国ではなかったかと、不思議な戦勝である。

第二次大戦を生き抜いただけでなく、1782年から独立国としてアジアの中で生き抜いた点を考えると、タイ国がいかにスマートな国であることがわかる。マレー沖海戦や真珠湾海戦の成功は終局の勝利につながらなかったが、ビルマ作戦のための日本軍の領土進駐を許しながら、戦争の惨害を受けず、戦後の立ちなおりがあざやかであった点はこれこそ本当の勝利であり、戦勝記念碑の値打



Thailand Atomic Energy Building (バンコック郊外)

ち十分である。

この戦勝記念碑が出発点になって医学会に出席のため午前8時30分から午後6時までの1日のバス旅行でコンケン市へ向った。道路は完全舗装で、アメリカのバス旅行なみである。フレンドシップ・ロードと呼ばれるが、大部分アメリカの援助である。バンコックに日本の援助でできたバイラス研究所があり、その建物の前にドイツの援助による衛生技術師学校がある。

もらうものなら何でも大歓迎。タイ国医師会がコンケン市に開催されたが、これにも日本の製薬会社、欧米系の会社がサンプルの大盤ふるまい。タイのお医者さんは女房子どもまでつれて出席し抱えきれないほどのサンプルを集める。

こうなってくるとバンコックの Victory Monument までアメリカからもらったものでないかと疑いたくなる。

2 タクシーを値切る

戦前の50銭タクシーはメーターなしで50銭均一も値切れば30銭になった時代もあった。バンコックのタクシーにはメーターがついているが使用されないで、日本人と見ればふきかけてくる。値切って乗れといわれるが、言葉が通じないままにTEN でがんばるとバンコック市内で大体10パーツで乗れた。10パーツで170円ぐらいであるからタクシー代は日本と同じかむしろ安いぐらいであるが、値切らなかつたら高いものにつく。

タクシーだけでなく商品も値切って買うのが常識、本ものにとせものの鑑別がむつかしくて、買物をすればにせものをつかまされる確率の高いのはバンコックだけではなく、東南アジアの常である。バンコックの国際空港へ着いてタイナショナルバンクの窓で30ドルの両替をやったら、20ドル分しかくれずうまくごまかされた。ナショナルバンクの女子職員が10ドルぱくるとは敵ながらあっぱれであった。

何でも値切るバンコックの街で日本人の経営する衣料店が正札を附して売り出して、値びきをしないのでそれが信用になって売れている店がある。しかし商品を輸入したり輸送したりするには役人へのつけ届けが必要で、そのかけひきに一方ならぬ苦勞があるそうである。

値切る心配のないタクシーや百貨店のある日本はやはり住みよい国である。そして値切れる電機製品その他の

あることも日本では楽しいことである。

値切るのが普通だという東南アジアの買物旅行に日本人にとっての魅力かも知れないが、買物をして高かったのではないか、にせものではないかの危惧感がともなうものは愉快でない。

3 日本製品

バンコックでタクシーの大部分は日本製の自動車であり、田舎へ行っても日本製のオートバイやオート三輪が巾をかかせている。タイ国第二の都市といってもチェンマイは人口7万ぐらいの小都市で、静かな農村風景が見られる。その朝もやを破って日本製バイクの爆音が聞えるが、中年婦人の乗っているものを見ると日本以上のようにも思われる。タイ国は農業国である。工業が未開発であれば工業製品は輸入にならねばならないので、距離的に近い日本の工業製品が有利である。米を食い仏教を信じ、親日的なタイの人々が安くて優秀な日本製品を歓迎するのは当然である。

巨人軍びいきが巨人軍が優勝したとあって喜ぶ程度にしか日本製品の優勢さをほめることはできない。筆者の専門から医薬品の進出状況を観察すると、大変おかしな現象が見られた。日本で売れなくなった内服液やドリンク剤が強精剤的なイメージで売りこんでいることである。ミゼット三輪が日本で過去のものになっていたが、チェンマイへ行ったらタクシーとしてリンクタを圧倒していた。この事情と一見似ているようだが大きな違いがある。ミゼットタクシーは四輪タクシーより安く、リンクタより早いから存在価値があるが、内服液やドリンク剤は錠剤や散剤のビタミン剤より高くてききめは変わらない点である。タイへの進出で最もおけているのは医薬品産業であるが、日本の医薬品の後進性がそのまま表われているようである。

バンコック—チェンマイ急行列車に乗って山間部に近づく線路の改良工事に日本の土木業者の飯場があり、道路工事や建築事業にも日本の業者が参加している。アジアオリンピックで日本が金メダルをとり過ぎたという評判であったが、日本の工業や、日本の製品がタイで伸びていても、オリンピックの日本チームの実力と同じに論ぜられない。なぜならタイの経済はタイ人のものでなく、中国系タイ人または華僑の握っているものであるからである。オリンピックの金メダルはそのまま日本へ持ち帰れるが、売れている日本商人でもうけているのは日本人か華僑かという点が問題である。

4 タイでの言葉

タイは英語の通ずる国ということだが、タイ国人の英語はわかりにくい。日本人の英語が外国人に通じにくい

のと同じ関係で、タイ人は自国語のくせを英語に持込むのであろう。タイ国の大学の講義は術語を英語で文章をタイ語でと日本の大学のそれと以ている。日本人のように英語を使いたがらないから、日本よりタイの方が国粋的であるということが出来る。先年マニラを訪問したがフィリッピンが英語国であり、大学でも英語で講義しているのにたいして、タイは昔ながらの独立国で英語国でないといえる。タイで仕事をやるにはタイ語ができることが先決である。

5 タイの大学

タイには私立大学がなく国立大学のみである。コンケンやチェンマイという地方都市にある大学が実に立派な建物で構内はあきれるほど広く雄大である。中味の方はお世辞にも充実しているということができない。

タイの大学生と短時間だが話してみるとおとなしい感じで日本製のオートバイを自慢そうに見せてくれた。○の大学生にタイ国の未来の夢が期待できそうもない。ゼンガクレンの名は世界的に有名だが、タイの大学生が学生運動をやったという話は聞かない。彼等は選ばれた学生であって、未来がほとんど約束されているためであろうか。日本でも就職好況の時代には大学生がおとなしくなり、かえって無気力的になりつつあった。フィリッピンには私立大学が多くてマニラの大通りで夜間部の学生が大学から出てくるのを見てあふれるばかりの数が筆者に強く印象的であったことを想出したが、国立大学だけのタイでは大学生に未来をかける印象が得られなかった。たった数人の大学生から、また僅か10日の滞在でタイの大学を評価するのは適当でないかも知れない。だが建物がいかに立派であっても、それだけで大学そのものを権威づけることのできないのは自明の理である。

6 恵まれた国

タイには地震や台風が少なく、土地は広く、米は余っているし、果実が豊富である。タイ国人は貧しくて、貧弱な生活をしていると聞いたが、その人々は食うには余り困っていないようである。働くには余り口がないかも知れないが、働かなくとも食うことができる。国民皆僧であるから坊さんになるという手もあるし、僅かの金で生活するという方法もある。

役人は月給が安いが結構ぜいたくな生活をしている。大学教授は日本の大学教授より社会地位は上だし、生活も豊かである。ノンビリした国で、チェンマンのホテルで休養したときはこんなところで生活してみたらと思うほど落ち着いたよい町であった。

(以下24頁に続く)

(26頁より続く)

タイは食うに困らぬ国といってよいかわからないが、日本より恵まれた国だといえる。だが生存競争の激しい日本では、働かねば食って行けない。地震・雷・火事・台風・交通難・公害と悪いことばかり日本に揃っていて、日本は発展した。

欧米を旅行して日本は恵れない国だと思う。タイへ旅行しても日本は恵れない国だと思う。しかしタイへ旅行して日本へ帰るとこの恵れない国に生れたことをつくづく有難いと思った。日本を見直すには欧米へ旅行するだけでなく東南アジアを見るべきだといえることができる。

大阪大学教授(薬学部)